Area News Topics

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか？身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。

シティライフNEWS で検索

（左）左からスタッフの佐藤さん、アーティストの笹原さん、みさご珈琲代表向井さん
（上）天井で小さな屋根が重なり合う店舗
（下）作品「ポストクローズィング」

MONTHLY OF TOPICS

1時間500円で気軽に自分の店を シェアストア「プレオープンズ」

阪急山田駅直結の商業施設「Dew（デュー）阪急山田」。そこで、2年近く空き店舗だった場所が、複数の事業主が店を共有するシェアストア「プレオープンズ」として生まれ変わった。店をシェアすることで、事業主の資金的、技術的なハードルを下げ、開業への一歩を後押しする。

― 開業の実験場“シェアストア”

「何が起こるか分からない。ここは科学実験場みたいなものです」。そう話すのは「プレオープンズ」を運営する向井務さん。

向井さんは、コーヒー豆の焙煎販売「みさご珈琲」（宝塚市）を営む傍ら、2014年から焙煎技術を教える「珈琲塾」を開講してきた。卒業生は150人を超え、中には開業を目指す人もいたが資金調達や手続きの煩雑さが課題になっていた。

こうした状況を残念に思っていた中、「Dew阪急山田」の空き店舗の話が舞い込んだ。そこで、珈琲塾の卒業生らと共有できる店を計画、アーティストの笹原晃平さんらとこの場所を開設した。

「プレオープンズ」は、開業したい人のための最初のステップとなる場所だ。業種やスキルの制限はなく、1時間500円で誰でも利用できる。店はキッチンスペースとイートスタンド付きの物販スペースからなる。飲食店営業、菓子製造業の許可を取得しているため、コーヒーなどのドリンクや軽食の提供も可能。商品の仕入れから、製造、宣伝、販売といった一連の流れを体験できる。

現在利用者として登録しているのはコーヒー店、雑貨店、洋菓子店、アロマセラピストなど計14事業主。すでに自分の店を持っていても、人通りの多い商業施設内にある利点から、販売場所として利用する人も。税理士による無料相談会も定期的にあり、開業にあたっての資金面の不安や疑問にも答えてくれる。

― 小さなコミュニティーを紡ぐ場に

目を引くのは、天井で重なり合う4つの小さな木組みの屋根。国内外でインスタレーション作品を発表するアーティスト・笹原晃平さんによるものだ。

笹原さんはこれまで「コミュニティーとは、大きな一つの屋根ではなく、小さな屋根の重なり」というテーマで作品を制作してきた。

今回の“シェアストア”のコンセプトに共感し、内装を担当。小さな屋根が集まるように、事業主一人ひとりがつながって店が形作られていけばとの思いを込めた。

― 2者が同時にシェアも可能 コラボ商品も生まれた

「プレオープンズ」の特徴は、利用者同士の合意があれば、キッチンスペースと物販スペースを別々の利用者が同時に借りられることだ。例えば、キッチンスペースでパティシエが洋菓子を製造し、物販スペースでコーヒー業者が自社のコーヒーと洋菓子を販売することもある。

こうした仕組みが、新しい商品を生み出すきっかけになっている。実際、前述の例では「コーヒーに合う洋菓子」というコンセプトで、利用者同士がコラボした焼き菓子「カヌレ」を販売することになったという。

笹原さんは「一般的には、他社とコラボして商品開発するのはかなり大がかりなこと。それがここではすぐに体験できる。シェアならではの形だと思う」と話す。

― 閉店状態の店舗もアート作品に

シェアストアは特定の事業主をもたないため、利用者がいない時間帯は、シャッターが下りた閉店状態となる。

笹原さんはその状態を「プレオープン」（開業前）と対比させ、「ポストクローズィング」（閉店後）という作品として展示する。利用者が増え、閉店状態が無くなれば自動的にこの展覧会は終了する仕組みだ。

笹原さんは「おもしろいことをしたいという人のパワーに負けて、作品が消えていくのが美しいと思っていて。それぐらい利用者が増えて、さらにはここを卒業して自分の店を構える人が出てくれたら」と話している。

※利用時間など詳細は「プレオープンズ」ウェブサイト（https://preopens.com/）で確認を。

SOCIAL

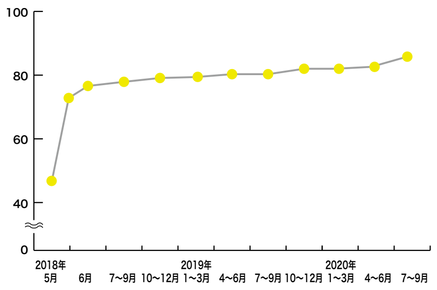
北摂7市3町 マイバッグ持参率約85％

北摂7市3町は2018年2月に「北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結して以降、「マイバッグ持参率80％」を目標に、事業者と自治体が連携し、レジ袋削減に向けたPR活動などを行っている。2018年3月には目標の80％を達成、2020年末の現在は85％を超えている。

ごみの発生抑制や温室効果ガスの排出抑制のため、豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町の7市3町と、地区内にある9事業者※とで協定を締結。各自治体では、活動状況やマイバッグ持参率及びレジ袋削減率を定期的に公表している。7市3町全体及び各自治体のマイバッグ持参率の最新情報については、各自治体のHPなどに掲載。

※イオンリテール近畿・北陸カンパニー、イズミヤ、関西スーパーマーケット、光洋、ダイエー、阪急オアシス、平和堂、万代、ライフコーポレーション（2019年4月から参加：いかりスーパーマーケット、ハートフレンド、コープこうべ）

［ 北摂7市3町の持参率推移グラフ ］



SOCIAL

吹田市社会福祉協議会施設連絡会ら 学生に食料支援

吹田市社会福祉協議会施設連絡会と吹田市社会福祉協議会が12月、新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困っている学生に向けた支援を行った。第1回目は10月初旬、第2回目は12月中旬に行い、いずれも定員50人を上回る申し込みがあった。

今回の支援は、連日のコロナ報道で学生も困っていることを知った施設連絡会会員から声が上がったことをきっかけに決定した。同会では以前から生活困窮者に向けた支援に取り組んでいる。第1回目は主に市内5ヵ所の大学生・大学院生に向けて約3日間の食料を配布。大阪よどがわ市民生活協同組合の寄付金で購入したレトルトカレーやパックごはん、缶詰やインスタントラーメンのほか、会員施設からの寄付で集まった災害用備蓄食などを配布した。インターネットによる申し込みで、受付の際にアンケートも実施したところ、「生活費を切り詰めるために食費を削っていたので助かった」など好評だったという。第2回目は市内専門学校2校にも案内。前回より反響が大きく、最終的に83人の申し込みがあった。

担当者は「『学費が厳しい』『アルバイトが減ってしまった』といった声も届いています。生活の困りごとについては以前から窓口を設けていますが、学生さんはなかなか相談に来づらいと思います。これをきっかけに、生活に関する相談ができることを知ってもらえれば」と話した。